

書籍の場合

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
29	青森	書籍	29	佐藤政五郎	1987	南部のことば 第二版 増補新版	伊吉書院	196	八戸市	《記述的研究》方言集	『南部のことば』より446語増補。
32	青森	書籍	32	岡田一二三	1996	みちのく 南部の方言	伊吉書院	?	?	?	未調査。

発行年順に並んでいます。
(論文、市町村史も同じ。)

ページは
総ページ数です。

該当する被災地が挙げられています。
「地名(地名)」とあるのは、「現在の市町村名(旧市町村名)」です。
(論文、市町村史も同じ。)

?は不明な箇所に
つけられています。
(論文、市町村史も同じ。)

論文の場合

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
40	青森	論文	4	内田武志	1934	青森県方言調査報告	土の香12-3(土俗趣味社)	46-71	八戸市、おいらせ町(百石町)	《記述的研究》方言集	
43	青森	論文	7	宮良当壮	1940	青森県秋田両県に於けるP音	[安藤教授還暦祝賀論文集]	1017-1040	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻)	

「雑誌名xx-xx(発行所)」です。
xx-xxの部分は巻号です。

論文が書籍に収録されている場合は、
書籍名を〔 〕で括弧しています。

雑誌や書籍中の何ページに載っているかが
示されています。()で数字が括弧されている場合は
論文の総ページ数です。

市町村史の場合

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
108	青森	市町村史	1	正部家奨	1977	階上町誌	階上町	799-830	階上町	《記述的研究》方言集	第五章 方言・訛語。

市町村史の何ページに載っているかが
示されています。

「内容」は、以下のように分類されています。(書籍、論文も同じ。)

- ▼研究手法・対象分類
 - 《記述的研究》《地理的分布》《世代差》《グロットグラム》《共通語化》
- ▼内容分類
 - ・音声；(音声、音韻、アクセント、イントネーション、その他)
 - ・語彙；(意味・用法、その他)
 - ・方言集
 - ・文法；(文法概説、助詞、活用、ボイス、テンス・アスペクト、条件表現、文末形式・文末表現、その他)
 - ・言語行動；(談話分析、表現など)
 - ・待遇表現；(敬語、その他)
 - ・談話資料
 - ・その他；(方言意識など)

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
482	福島	書籍	1	新妻三男	19--	相馬方言考 補遺1	新妻三男	6	相馬地方	《記述的研究》方言集	少し説明あり。分量少ない。
483	福島	書籍	2	小林勉	19--	相馬方言に就て(草稿)	小林勉	14	相馬地方	《記述的研究》方言集	国研『福島県方言資料集2』に収録。
484	福島	書籍	3	新妻三男	1930	相馬方言考	新妻三男	130	相馬市	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(文法概説)	すべて手書きだが情報量が多い。前半が音韻・文法などに関する概説、後半が語彙集。
485	福島	書籍	4	新妻三男	1930	相馬方言考 上	新妻三男	31	相馬市	《記述的研究》音声(音韻)/文法(文法概説)	「相馬方言考」の前半部分。国研『福島県方言資料集2』に収録。
486	福島	書籍	5	酒井喜勝	1930	発音及び方言ノ矯正 : 本年度本校教育改善努力事項ノ三	酒井喜勝	9	南相馬市(高平村)	《記述的研究》音声(音韻)/方言集	現南相馬市原町区の高平地区。音韻、言語の記述がある。国研『福島県方言資料集2』に収録。
487	福島	書籍	6	大田栄太郎	1931	福島県方言	廣文社	49	全域	《記述的研究》方言集	書籍15との関連不明。同一物か。
488	福島	書籍	7	小林勉	1931	相馬の方言その一	小林勉	13	相馬地方(南相馬市)	《記述的研究》方言集	著者は原町(現南相馬市)の住所。
489	福島	書籍	8	武藤要	1931	福島縣中村町方言集	一言社	168	相馬市	《記述的研究》方言集	
490	福島	書籍	9	鈴木久義	1932	相馬方言訛語誤音韻矯正一覽	福島県立相馬高等女学校	1	相馬地方	《共通語化》音声(音韻)	方言の音韻と共通語の音韻。分量少ない。
491	福島	書籍	10	新妻三男	1932	続相馬方言考(単語の部)	新妻三男	34	相馬地方	《記述的研究》方言集	相馬方言考の内容を増補したもの。著者住所は中村町(現伊達市保原)。国研『福島県方言資料集2』に収録。
492	福島	書籍	11	柴田裕定	1934	石城地方中心ノ常磐地方ニ於ケル方言・訛語ノ研究	柴田裕定	108	常磐地方(いわき地方中心)	《記述的研究》音声(音韻)/方言集	音韻に関して若干記述あり。また意味変化の要因についての概説あり。国研『福島県方言資料集3』に収録。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
493	福島	書籍	12	児玉卯一郎	1935	福島県方言辞典	岳陽堂書店	361	全域	《記述的研究》方言集	福島県の比較的大型の方言集。音韻・語法について概説するとともに、訳2/3を方言語彙が占める。浜、中、会など使用地域を明示するのが特徴。
494	福島	書籍	13	岩崎敏夫	1953	相馬方言集	岩磐郷土研究会	37	相馬地方	《記述的研究》方言集	昔話、童謡も収載。国研『福島県方言資料集1』に収録。
495	福島	書籍	14	香内佐一郎	1953	福島方言集	岩磐郷土研究会	32	全域	《記述的研究》方言集	p.13-26にかけて福島方言集として会話例あり。国研『福島県方言資料集2』に収録。
496	福島	書籍	15	柴田裕定	1957	福島県常磐地区における方言の研究	福島県立内郷高等学校	138	いわき市(常磐地区)	《記述的研究》音声(音韻)/方言集	前編に「言語指導を通しての生活指導」があり、その後編(p.61以降)として方言の記述がある。かなり語数が多い。国研『福島県方言資料集3』に収録。
497	福島	書籍	16	広島大学	1962	福島県方言における敬語	広島大学	4	全域	《地理的分布》待遇表現(敬語)	福島県39地点及び隣接県各1地点。表現の形式をまとめた表と地図があるが、文章はほとんどない。国研『福島県方言資料集1』に収録。
498	福島	書籍	17	大田栄太郎	1971	福島県方言(方言集覧稿第三編)	大田栄太郎(日本大学図書館)	49	全域	《記述的研究》方言集	第3編 石城郡誌等9書からの引用。地域名も語ごとに記してある。国研『福島県方言資料集2』に収録。
499	福島	書籍	18	小林金次郎	1972	福島県の方言集成方言は生きている	西沢	299	全域	《記述的研究》方言集/待遇表現(敬語)/その他/《地理的分布》その他	語彙がほとんど。語法について少し。方言雑話もあり。分量多い。
500	福島	書籍	19	新妻三男	1973	相馬方言考 改訂版	相馬郷土研究会	206	相馬地方	《記述的研究》音声(音韻)/語彙/方言集/文法(助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/その他)/待遇表現(敬語)	方言集自体はそれほど多くないが、音韻、文法等の解説が充実しており、会話例も掲載されている。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
501	福島	書籍	20	福島県教育委員会	1974	福島県民俗分布図—民俗資料緊急調査報告書—	福島県教育委員会	87	新地町、相馬市、南相馬市(鹿島町、原町市、小高町)、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、いわき市、飯館村、葛尾村、田村市(都路村、船引町、常葉町、大越町、滝根町)、川内村、伊達市(梁川町、伊達町、保原町、霊山町、月舘町)、川俣町	《地理的分布》語彙(その他(語形))	民俗地図。昭和46・47年に調査が行われたもの。宮城県教育委員会・秋田県教育委員会・山形県教育委員会・福島県教育委員会編/天野武監修(2000)『都道府県別 日本の民俗分布地図集成 第2巻 北海道・東北地方の民俗地図2 宮城・秋田・山形・福島』東洋書林所収。
502	福島	書籍	21	飯豊毅一	1974	福島県北部地域の面接調査 言語使用の変遷(国立国語研究所報告53)	秀英出版	388	伊達市(保原町)	《記述的研究》音声(音韻)/文法(助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/条件表現/その他)/《世代差》音声(音韻)/語彙/文法(助詞/ボイス/条件表現/その他)/待遇表現(待遇表現/敬語)/その他(方言意識)	「Ⅱ 伊達郡方言の特徴」(p.30-56)に音韻、文法の記述がある。
503	福島	書籍	22	高木稲水	1975	いわき方言	いわき春秋社	246	いわき市	《記述的研究》方言集	自己の方言の内省と思われる。わらべ歌も含む。
504	福島	書籍	23	新妻三男	1975	相馬方言考 補遺2	相馬郷土研究会	28	相馬地方	《記述的研究》方言集/その他	方言雑話と単語の追加。少し説明あり。分量多い。
505	福島	書籍	24	福島県女子師範学校	1976	福島県郷土誌	歴史図書社	496	全域	《記述的研究》音声(音韻)/語彙(意味・用法)/文法(助詞/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	第十六章 方言(pp.470-496)が該当箇所。昭和10年刊の複製。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
506	福島	書籍	25	福島県教育委員会	1980	福島県民俗分布図—福島県文化財調査報告書第78号—	福島県教育委員会	57	新地町、相馬市、南相馬市(鹿島町、原町市、小高町)、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、いわき市、飯館村、葛尾村、田村市(都路村、船引町、常葉町、大越町、滝根町)、川内村、伊達市(梁川町、伊達町、保原町、霊山町、月舘町)、川俣町	《地理的分布》語彙(その他(語形))	民俗地図。昭和53・54年に調査が行われたもの。宮城県教育委員会・秋田県教育委員会・山形県教育委員会・福島県教育委員会編/天野武監修(2000)『都道府県別 日本の民俗分布地図集成第2巻 北海道・東北地方の民俗地図2 宮城・秋田・山形・福島』東洋書林所収。
507	福島	書籍	26	新妻三男	1982	相馬方言をさかのぼる	相馬郷土研究会	265	相馬地方	《記述的研究》方言集/語彙(意味・用法)	民俗習慣の事例とともに、方言形の談話も少々あり。使い方やエピソードの記述あり。
508	福島	書籍	27	福島郷土文化研究会	1986	誰にでもわかる福島県の方言	歴史春秋出版	335	全域	《記述的研究》方言集	昔話を添えた方言語彙集。用例が各語についているところが特徴。浜通、県北、県中、県南、会津に分けて単語を記す。昔話・地名もあり。
509	福島	書籍	28	草野二郎	1990	いわき市小川町地方の方言 改訂増補	草野二郎	186	いわき市	《記述的研究》方言集/言語行動(あいさつ表現)	挨拶ことば(14会話)あり。
510	福島	書籍	29	加藤正信	1995	福島県相馬地方における方言の共通語化の実態とその社会的心理的背景	科研報告書	145	南相馬市(小高町、原町市)、相馬市	《共通語化》音声(音声/アクセント)/その他(方言意識)	世代差・共通語化についてかなり網羅的に調査してあるが、文法的記述は少ない。量は多い。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
511	福島	書籍	30	福島県水産試験場	1995	福島の海産動物方言集 魚の呼び名	福島県水産試験場	103	いわき地方、相馬地方、双葉地方	《記述的研究》語彙	地域の区分は「全域、いわき、相馬、双葉」。 目次: I 海産魚類 方言から和名、II 海産魚類 標準和名から方言、III 海産魚類 大きさにより方言の変わる魚、IV 分類表、V 海産食用動物 方言から標準和名、VI 海産食用動物 標準和名から方言、VII 海産食用動物 分類表。 IIとIVに関しては標準和名を福島県だけではなく、茨城県や宮城県でどのように言うかも記載している。
512	福島	書籍	31	檜葉町文化財調査委員会	1995	ならはの方言 檜葉町のことばを残す	檜葉町教育委員会	115	檜葉町	?	未調査。
513	福島	書籍	32	半沢康・小林初夫・武田拓	1998	宮城・福島沿岸地域におけるグロットグラム調査報告	科研報告書	49	相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町	《グロットグラム》音声(音韻)/語彙/文法(助詞/活用/アスペクト)/待遇表現(待遇表現/敬語)	
514	福島	書籍	33	阿部包昭	1998	保原町を中心として昭和一桁生まれが使った方言集 第4版	阿部包昭	81	伊達市(保原町)	《記述的研究》方言集	1版:平成3年、2版:平成4年、3版:平成6年。
515	福島	書籍	34	高野徳	1999	原町市の方言わたしたちの古里言葉	高野徳	81	南相馬市(原町市)	《記述的研究》方言集	南相馬市原町区。50音順に語彙を羅列。当該地域方言と付近共通語を区別して明示してあるのが特徴的。
516	福島	書籍	35	ヤッチキ・ヤッペGROUP	1999	いわきの方言1616(いろいろ)	ヤッチキ・ヤッペGROUP	72	いわき市	《記述的研究》方言集	50代のメンバー7名で作成。1600以上の語。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
517	福島	書籍	36	大橋純一	2002	東北方言音声の研究	おうふう	469	檜葉町、いわき市	《記述的研究》《地理的分布》音声(音声)	被災地に関しては他に青森県八戸市、岩手県洋野町(種市町、大野村)、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町、宮古市(宮古市、田老町、川井村)、大槌町、宮城県気仙沼市(本吉町)、仙台市、山元町が調査地点となっている。
518	福島	書籍	37	井上史雄・玉井宏児・遣水兼貴	2003	東北・北海道方言の地理的・年齢的分布(THグロットグラム)	東京外国語大学	196	伊達市	《グロットグラム》語彙/文法(助詞/活用/ボイス/テンス・アスペクト/条件表現/文末形式・文末表現)/その他	一部被災地該当。
519	福島	書籍	38	いわき市教育委員会	2003	いわきの方言:調査報告書	いわき市	105	いわき市	?	未調査。
520	福島	書籍	39	加藤正信・大橋純一・武田拓・半沢康	2004	関東・東北境界域言語地図 常磐線・磐越東線グロットグラム	いわき明星大学人文学部加藤正信研究室	379	新地町、相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、檜葉町、広野町、いわき市	《地理的分布》音声(音韻/アクセント)/語彙/文法(助詞/活用/テンス/アスペクト)/《グロットグラム》音声(音韻/アクセント)/語彙/文法(助詞/活用/テンス/アスペクト/条件表現)/その他(方言意識)	前半は福島浜通、中南部～栃木・茨城県北部の言語地図。後半はグロットグラム。
521	福島	書籍	40	小林初夫	2005	高平方言集	高平方言教室	52	南相馬市(原町市高平地区)	《記述的研究》方言集	現南相馬市原町区の高平地区。説明なし。分量多い。
522	福島	書籍	41	大橋純一	2008	福島県いわき市方言の研究 関東・東北接触地域の世代別多人数調査	いわき明星大学大学院人文学研究科日本文学専攻	148	いわき市	《世代差》音声(音韻)/語彙(語彙/意味・用法)/文法/その他(方言意識)	対象は高・中・若・少男女計91名。アンケート調査。様々な分析を行い、グラフや表が多く示されている。
523	福島	書籍	42	田村市文化財保護審議会	2010	田村市のことば(田村市史4)	福島県田村市教育委員会	123	田村市	《記述的研究》方言集	書籍構成:方言編/民謡編/地名編。収録の方言、民謡、地名は他の文献から編集。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
524	福島	論文	1	吉田巖	1915	相馬方言とアイヌ語	人類学雑誌30-1(東京人類学会)	27-29	相馬地方	《記述的研究》その他	相馬方言とアイヌ語の関わりについて述べたもの。
525	福島	論文	2	松本繁	1932	磐城相馬の植物方言	方言2-10(春陽堂)	782-787	いわき地方、相馬地方	《記述的研究》方言集	分量少ない。説明なし。
526	福島	論文	3	新妻三男	1932	相馬方言雑記	方言と国文学3(国語・国文学附録)(郡山市国語研究社)	29-31	相馬地方	《記述的研究》音声(音声)/語彙(意味・用法)/文法(活用/文末形式・文末表現)	「らん」の生存、2マヨーとマヤー、3ものして、4かぶす、5なた、6ファとフェの音、7うたて、叫声説、各節短く解説。
527	福島	論文	4	新妻三男	1934	相馬に於ける敬語助詞及び助動詞(福島県)	国語研究2-4(国語学研究会)	53-57	相馬地方	《記述的研究》待遇表現(敬語)	敬語動詞、敬語助動詞の意味と用例。分量少ない。
528	福島	論文	5	高木稲水	1934	磐城地方方言考(一)	方言4-9(春陽堂)	46-53	いわき地方	《記述的研究》方言集	少し説明あり。分量少ない。
529	福島	論文	6	高木稲水	1935	磐城方言考(二) — 平町近在磐崎村藤原を中心とする—	方言5-3(春陽堂)	29-38	いわき地方	《記述的研究》方言集	少し説明あり。分量少ない。
530	福島	論文	7	高木稲水	1935	磐城方言の接頭接尾語に就いて	方言5-9(春陽堂)	15-19	いわき市(平町、磐崎村藤原)	《記述的研究》文法(その他(接辞))	接頭語・接尾語を集めたもの。用例少ない。分量少ない。
531	福島	論文	8	児玉卯一郎	1935	岩磐方言に於ける特殊音韻現象—ヤ行ザ行相通に就いて—	方言5-4(春陽堂)	72-75	全域	《記述的研究》音声(音韻)	ヤ行ザ行相通現象。例少ない。分量少ない。
532	福島	論文	9	高木稲水	1936	磐城方言考(三)—福島県平町近在磐崎村藤原を中心とする—	方言6-4(春陽堂)	58-65	いわき地方	《記述的研究》方言集	少し説明あり。分量少ない。
533	福島	論文	10	広瀬敏子	1947	磐城方言の中に見える古語	日本の言葉1-3(日本の言葉研究会)	21-22	いわき地方	《記述的研究》語彙	エッセイ的。
534	福島	論文	11	蒲生明	1955	福島方言	民間伝承19-9(民間伝承の会)	51のみ	田村市(田村郡)	《記述的研究》語彙(意味・用法)	いくつかの語の説明。分量はとて少ない。「日本の言葉」第二巻第一号の福島方言の花園い少しく註解を要するものがあるので茲に記します」とある。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
535	福島	論文	12	柴田武	1957	方言の手帳3 ズー ズー弁	放送文化12-11(日 本放送協会)	54-55	伊達市(保原 村)	《地理的分布》音声(音韻)	ズーズー弁中心に東北 地方から北陸、出雲地方 の差を見たもの。
536	福島	論文	13	佐藤喜代治	1958	福島県方言の敬語法	文化22-4(東北大 学文学部)	3-20	南相馬市(石 神村)、飯館 村(大館村)、 双葉町(標葉 町)、葛尾村	《記述的研究》待遇表現(敬語)	福島方言の敬語につい ての概説。分量多い。他 調査地点は安積郡日和 田町、耶麻郡猪苗代町、 塩川町、堂島村、河沼郡 笈川村、広瀬村、大沼郡 高田町、同永井野地区、 金山村川口、南会津郡 田島町福米沢、只見村 只見、南郷村大宮地区、 桧枝岐村桧枝岐。
537	福島	論文	14	宮島達夫	1961	方言の実態と共通語 化の問題点 6福島・茨 城・栃木	[方言学講座2]	236-263	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/文 法(助詞/活用/テンス/条件表現)	全体的な概説は最初の 一部。具体的な記述は 茨城県水海道市中妻町 のもの(筆者の内省によ る)。
538	福島	論文	15	飯豊毅一	1962	方言の分布—推量表 現「ペー」について	相模女子大学紀要 13(相模女子大学 学術研究会)	50-65	相馬市、南相 馬市(鹿島 町)、浪江町 (浪江町、津 島村)、いわき 市(久之浜 町、磐城市、 勿来市)	《記述的研究》《地理的分布》文法(ボイス /文末形式・文末表現)	「…ペー」の概説と形式 の分布。分量多い。
539	福島	論文	16	飯豊毅一	1964	福島県方言における 対者尊敬表現につい て	国語学59(国語学 会)	11-24	相馬市、南相 馬市(鹿島 町)、浪江町 (浪江町、津 島村)、いわき 市(久之浜 町、磐城市、 勿来市)、川 俣町	《地理的分布》待遇表現(敬語)	文末助詞による敬語の 地域分布。分量多い。調 査地点はほかに小野、 三春、国見、野田、福 島、松川、安達、本宮、 日和田、福良、石川、須 賀川、天栄、棚倉、表 郷、白河、猪苗代、岩 月、喜多方、西会津、若 松、北会津、柳津、昭 和、三島、金山、三条、 下郷、田島、南郷、館 岩、只見、桧枝岐。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
540	福島	論文	17	飯豊毅一	1964	南奥方言と関東方言の境界について	〔日本の方言区画〕	196-224	相馬市、南相馬市(鹿島町)、浪江町(浪江町、津島村)、いわき市(久之浜町、磐城市、勿来市)、川俣町	《地理的分布》音声(音声/音韻)/語彙(語形)/文法(助詞/活用/ボイス/条件表現/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	調査地点はほかに小野、三春、国見、野田、福島、松川、安達、本宮、日和田、福良、石川、須賀川、天栄、棚倉、表郷、白河、猪苗代、岩月、喜多方、西会津、若松、北会津、柳津、昭和、三島、金山、三条、下郷、田島、南郷、館岩、只見、桜枝岐。
541	福島	論文	18	加藤正信	1964	北奥方言と南奥方言と越後方言の境界	〔日本の方言区画〕	175-195	相馬市	《地理的分布》音声(音声/音韻)/語彙(語形)/文法(助詞/助動詞/活用)	調査地点はほかに岩手県花巻市、一関市、秋田県横手市、宮城県気仙沼市、石巻市、大崎市(古川)、仙台市、白石市、山形県新庄市、鶴岡市、山形市、米沢市、小国町、福島県福島市、郡山市、会津若松市、新潟県村上市、新発田市、阿賀町(津川)、新潟市、三条市、長岡市、柏崎市、上越市(高田)。
542	福島	論文	19	高萩精玄	1965?	石城地方坑夫用語	石城郡誌?	778-781(46-49)	いわき地方	《記述的研究》方言集	99語の坑夫用語を掲載。方言一意味の形式。発行所不明。
543	福島	論文	20	日本放送協会	1966	9 福島県相馬郡石神村	〔全国方言資料 第一巻 東北・北海道編〕	257-284	南相馬市(石神村)	《記述的研究》談話資料	自由会話×2、あいさつ。
544	福島	論文	21	言語班	1967	福島県相馬地方調査・言語編—概説、音韻的特徴、血族関係語彙など—	ほうげん3(二松学舎大学方言研究会)	22-201	相馬地方	《記述的研究》音声(音韻)/《地理的分布》その他	音韻の特徴と語彙の分布が中心。分量多い。
545	福島	論文	22	岩崎敏夫・秋山政一	1967	第6章 言語生活	〔福島県史24〕	379-491	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント/イントネーション)/文法(文法概説/活用/ボイス/文末形式・文末表現)/《地理的分布》音声(音韻/イントネーション)/文法(活用/文末形式・文末表現)/その他	各分野について詳細に記述。県内の分布についても。分量多い。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
546	福島	論文	23	飯豊毅一	1969	福島県方言における「ル」「ラル」敬語について	国文学攷49(広島文理科大学国語国文学会)	23-35	全域	《地理的分布》待遇表現(敬語)	
547	福島	論文	24	小林清治・山田舜	1970	方言	〔県史シリーズ7 福島県の歴史〕	左48のみ	全域	《記述的研究》方言集	付録のp.48に方言が数十語記載されている。使用地区は「全県/県北/県南/会津/浜」という分類。
548	福島	論文	25	青柳精三	1973	東北の東海岸における方位潮流語彙の外観	フィールドの歩み4(東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	49-69	相馬市、南相馬市、浪江町、いわき市	《地理的分布》語彙	岩手県久慈市久喜より茨城県日立市川尻に至る22の漁港で、漁歴の長い人から聞き取り調査をしたもの。
549	福島	論文	26	飯豊毅一	1978	東北地方における方言語彙の変遷—福島県北部地域調査を中心として—	〔日本方言の語彙〕	389-412	伊達市(保原町)	《共通語化》語彙	
550	福島	論文	27	岩崎敏夫	1978	民俗編 福島県のことば	〔新福島風土記 福島県の歴史と風土〕	441-448	相馬地方、いわき地方	《記述的研究》音声(音韻)/文法(文法概説)	各分野の概説。浜通り地方(相馬地方、いわき地方)のほか、中通り地方(三春・二本松地方)、会津地方の方言にも言及。
551	福島	論文	28	飯豊毅一	1981	文法形式と変容—福島県北部地域方言を主例として—	〔方言学論叢:藤原与一先生古希記念論集1〕	129-148	伊達市(保原町)	《世代差》その他(方言意識)/《共通語化》音声(音韻)/語彙/文法	飯豊1974『言語使用の変遷』(国立国語研究所、秀英出版)に記載の福島県北部地域調査の結果を使用。地点は福島市と保原町(現伊達市)。世代差、位相差に着目。
552	福島	論文	29	菅野宏	1982	福島県の方言	〔講座方言学4 北海道・東北地方の方言〕	363-398	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/文法(文法概説)/《地理的分布》音声(音韻)/語彙	
553	福島	論文	30	森下喜一	1985	いわき市の敬語表現について 特に接頭語「お」をめぐる	国語研究49(国学院大学国語研究会)	99-108	いわき市	《記述的研究》待遇表現(敬語)	調査地点はいわき市の平と江名。敬語表現の接頭語について、語彙差・職業差・男女差・年代差から。分量多い。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
554	福島	論文	31	岩崎敏夫	1986	福島県のことば	〔福島の研究 5 方言・民俗篇〕	61-80	相馬地方、いわき地方	《記述的研究》音声(音韻)/文法(文法概説)	各分野の概説。分量少ない。浜通り地方(相馬地方、いわき地方)のほか、中通り地方(三春・二本松地方)、会津地方の方言にも言及。
555	福島	論文	32	森下喜一	1986	いわき市の敬語表現 命令的表現の型を中心に	岩手医科大学教養部研究年報21(岩手医科大学教養部)	183-200	いわき市	《記述的研究》待遇表現(敬語)	調査地点はいわき市の平と江名。地域別、性別、年齢別の敬語表現の状況。分量多い。
556	福島	論文	33	菅野宏	1986	福島県方言の語彙語法の分布	〔福島の研究 5 方言・民俗篇〕	9-59	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント/イントネーション)/文法(助詞/活用/ボイス/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)/《地理的分布》音声(音韻)/文法(助詞/活用/ボイス/文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)/その他	福島方言の概説。分量多い。
557	福島	論文	34	高木誠一	1986	稲作に関する語彙	〔福島の研究 5 方言・民俗篇〕	81-96	全域	《記述的研究》語彙(語彙)	
558	福島	論文	35	森下喜一	1993	福島方言アクセントの年齢的特徴	作新学院大学紀要文化と科学3(作新学院大学経営学部)	25-43	相馬市、いわき市	《世代差》音声(アクセント)	アクセントの年代差について。東京式と比較。分量多い。
559	福島	論文	36	加藤正信・齋藤孝滋・半沢康・亀田裕見	1994	福島県小高町における方言の共通語化に関する社会言語学的調査報告	日本文化研究所研究報告 別巻31(東北大学日本文化研究所)	左15-37	南相馬市(小高町)	《共通語化》音声(音声/アクセント)/文法(助詞/ボイス)/その他(方言意識/その他)	対象地域における各分野の共通語化の実態、言語意識の関わり。分量多い。
560	福島	論文	37	半沢康	1995	伊達・中村藩境地帯の方言分布に関する調査報告	東北生活文化大学三島学園女子短期大学紀要(論文編)26(東北生活文化大学・三島学園女子短期大学)	67-80	新地町、相馬市	《地理的分布》音声(音声/音韻)/語彙/文法	
561	福島	論文	38	亀田裕見	1996	福島県相馬地方の無型アクセント多人数話者における音相 基本周波数曲線の視覚的パターン分類による	日本文化研究所研究報告 別巻33(東北大学日本文化研究所)	80-92	南相馬市(小高町、原町市)	《記述的研究》音声(アクセント)	一地域における多人数の無型アクセント話者の示す音相の違い。分量多い。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
562	福島	論文	39	半沢康・亀田裕見	1996	方言変化に関わる社会的・心理的要因 福島県相馬地方における共通語使用に関する調査から	〔方言の現在〕	254-274	南相馬市(小高町、原町市)	《共通語化》その他(方言意識/その他)	対象地域の共通語使用の実態とそれに関わる要因について。分量多い。
563	福島	論文	40	半沢康	1996	福島県北部地域における多人数方言調査の報告と考察(1)	東北生活文化大学三島学園女子短期大学紀要(論文編)27(東北生活文化大学・三島学園女子短期大学)	57-111	伊達市、川俣町	《地理的分布》語彙/文法	多人数調査。
564	福島	論文	41	半沢康	1997	福島県北部地域における多人数方言調査の報告と考察(2)	東北生活文化大学三島学園女子短期大学紀要(論文編)28(東北生活文化大学・三島学園女子短期大学)	75-86	伊達市、川俣町	《共通語化》その他(方言意識)	多人数調査。
565	福島	論文	42	半沢康	1998	方言使用と方言評価意識に関する因果分析の試み—東北地方南部高校生アンケート調査の結果から—	国語学研究37(東北大学文学部『国語学研究』刊行会)	45-56	新地町、南相馬市、いわき市	《共通語化》その他(方言意識)	南相馬市は原町、いわき市は内郷と勿来が調査地点。方言意識と使用の因果関係。その他の要因も少し。分量多い。
566	福島	論文	43	半沢康	1999	東北地方の地域方言と社会方言	日本語学18-13(明治書院)	176-185	新地町、相馬市、南相馬市(鹿島町、原町市、小高町)、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、いわき市	《グロットグラム》音声(音韻)/文法(助詞/テンス・アスペクト/文末表現・文末形式)/その他	宮城県北部から福島県いわき市にかけてのグロットグラムや、福島県・宮城県のグロットグラムを用いて方言変化の様子をみたもの。
567	福島	論文	44	小野米一	2000	福島県相馬地方への旅	日本語学19-10(明治書院)	58-64	相馬地方	《記述的研究》音声(アクセント)/その他	著者が相馬地方を訪れた際の話。アクセントを若干。分量少ない。
568	福島	論文	45	小林初夫	2000	福島県相馬郡小高町飯崎方言の副助詞	方言資料叢刊8(方言研究ゼミナール)	49-54	南相馬市(小高町飯崎)	《記述的研究》文法(助詞)	副助詞の用例。分量少ない。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
569	福島	論文	46	小池壮一	2000	福島方言と共通語	国文学論輯21(国士舘大学国文学会)	169-180	全域	《記述的研究》音声(音韻)	「分かんない」について福島の新方言であると、福島、栃木、茨城、埼玉、東京への地域差・世代差の調査も行っている。
570	福島	論文	47	半沢康	2001	宮城・福島太平洋沿岸地域の方言動態 常磐線沿線グロットグラム調査の結果から	言文48(福島大学教育学部国語学国文学会)	1-14	新地町、相馬市、南相馬市(鹿島町、原町市、小高町)、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町、広野町、いわき市	《グロットグラム》音声(音韻)/その他	グロットグラム調査による各分野の方言の境界の成立、移動・変化。分量多い。
571	福島	論文	48	西牧忠	2002	夜間の交通事故から身を守るために—福島方言駆使してPR	人と車38-11(全日本交通安全協会)	10-14	相馬市、南相馬市、伊達市、浪江町、富岡町、いわき市	《その他》	ラジオで交通安全指導をPRすることに方言を使ったという紹介。一部方言談話がある。
572	福島	論文	49	本多真史	2003	平行するグロットグラム—東北本線と常磐線の比較	いわき明星大学大学院人文学研究科紀要1(いわき明星大学)	77-91	浜通り	《グロットグラム》	
573	福島	論文	50	大橋純一	2004	福島県相馬市方言における語中が行入り渡り鼻音	国語学研究43(東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会)	左39-51	相馬市	《記述的研究》音声(音声)	語中が行入り渡り鼻音の実態について。分量は多い。
574	福島	論文	51	本多真史	2004	関東・東北接触地帯における話者の言語意識と方言使用の関わり	いわき明星大学大学院人文学研究科紀要2(いわき明星大学)	58-77	浜通り	《地理的分布》その他(方言意識)	言語意識と方言使用の関係、その地理的分布。分量多い。
575	福島	論文	52	半沢康	2005	東北地方南部若年層における非標準語形使用の要因分析 心理的特性とのかかわり	国語学研究44(東北大学大学院文学研究科「国語学研究」刊行会)	1-15	新地町、南相馬市、いわき市	《共通語化》その他	南相馬市は原町、いわき市は内郷と勿来が調査地点。「非標準語形」の使用と心理的特性との関わり。分量多い。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
576	福島	論文	53	大橋純一	2005	関東・東北境界域方言の分布パターン	いわき明星大学人文学部研究紀要18(いわき明星大学)	108-118	福島県南東部(いわき市、ほか地点不明『関東・東北境界域言語地図』に即する)	《地理的分布》語彙	語彙の地理的分布パターン。
577	福島	論文	54	本多真史	2005	平行するグロットグラムと平面分布図による言語侵入の立体的把握 北関東から福島県中通り・浜通りにかけて	いわき明星大学大学院人文学研究科紀要3(いわき明星大学)	51-62	相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楡葉町、いわき市	《グロットグラム》《共通語化》その他	グロットグラム調査による共通語侵入傾向の把握。分量多い。具体的な調査地点は以下の通り。相馬、原ノ町、小高、浪江、双葉、大野、富岡、竜田、末続、四倉、平、湯本、勿来。
578	福島	論文	55	大橋純一	2006	方言事象分布における使用語と理解語『関東・東北境界域言語地図』調査に即して	いわき明星大学人文学部研究紀要19(いわき明星大学)	32-43	浜通南部、ほか地点不明『関東・東北境界域言語地図』に即する)	《地理的分布》その他	使用語に対する理解語の比率、その傾向、分布パターン。分量多い。
579	福島	論文	56	大橋純一	2006	福島県いわき市平下高久方言の立ち上げ詞	方言資料叢刊9(方言研究ゼミナール)	15-22	いわき市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	いわき市平下高久。立ち上げ詞の種類。アクセント記号あり。
580	福島	論文	57	小林初夫	2006	福島県相馬郡小高町飯崎方言の立ち上げ詞	方言資料叢刊9(方言研究ゼミナール)	23-28	相馬市	《記述的研究》語彙(意味・用法)	相馬市小高区。無アクセントのためアクセント記号はなし。
581	福島	論文	58	作田将三郎	2006	東北地方における<雷>の地方語史	文化69-3・4(東北大学文学会)	左58-77	相馬市、伊達市、いわき市	《記述的研究》《地理的分布》語彙(その他(語史))	
582	福島	論文	59	本多真史・加藤浩二	2007	福島県中通り・浜通りにおける方言領域 生活圏との関わりに着目して	言文54(福島大学教育学部国語学国文学会)	2-11	浜通り	《地理的分布》その他	「氷柱」を例に見た方言領域と生活圏との関係。分量少ない。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
583	福島	論文	60	本多真史	2009	関東・東北接触地帯における新方言普及	言文56(福島大学教育学部国語学国文学会)	32-42	相馬市、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町、楢葉町、広野町、いわき市、飯舘村、川俣町、伊達市、田村市、葛尾村	《グロットグラム》語彙	東北本線、常磐線グロットグラム。
584	福島	論文	61	半沢康	2010	福島県南相馬市小高区方言の変容 方言実時間調査データの比較	言文57(福島大学教育学部国語学国文学会)	左2-14	南相馬市	《世代差》音声(音声/アクセント)/語彙/文法/その他(方言意識)	南相馬市小高区。
585	福島	論文	62	本多真史	2010	福島県相馬市小高区における方言使用実態 世代差に注目して	言文57(福島大学教育学部国語学国文学会)	左15-25	南相馬市	《世代差》《共通語化》語彙	南相馬市小高区。多人数調査。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
586	福島	市町村史	1	福島県	1967	福島県史 第24巻 民俗2	福島県	379-491	全域	《記述的研究》《地理の分布》音声(音韻)/語彙/文法(文法概説)	第六章 言語生活 岩崎敏夫・秋山政一著。
587	福島	市町村史	2	福島県史料叢書刊行会	1968	石城郡誌(福島県郡誌集成15)	福島県史料叢書刊行会	301-308	いわき市	《記述的研究》方言集	第十四章 第四節 方言訛語 石城郡役所編(1922)『石城郡誌』の復刻。もとの該当ページは341-356。
588	福島	市町村史	3	福島県史料叢書刊行会	1969	双葉郡郷土誌(福島県郡誌集成16)	福島県史料叢書刊行会	156-179	相馬地方、いわき市	《記述的研究》方言集	第五節 方言訛語 『雙葉郡郷土誌』の復刻。
589	福島	市町村史	4	常葉町	1974	常葉町史	常葉町	572-575	田村市(常葉町)	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(助動詞)	4ページに満たない記述で、それほど詳しくはない。
590	福島	市町村史	5	相馬市史編纂会	1975	相馬市史3 各論編2・民俗・人物	相馬市史編纂会	648-659	相馬市	《記述的研究》待遇表現(敬語)/その他	第五節 相馬のことば。
591	福島	市町村史	6	伊達郡役所	1979	伊達郡誌	伊達郡役所	214-231	川俣町	《記述的研究》音声(音声)/語彙	第十五章 方言訛語。
592	福島	市町村史	7	飯舘村史編纂委員会	1979	飯舘村史 第一巻通史	飯舘村	829のみ	飯舘村	《記述的研究》方言集	附資料 第四節 方言訛語。
593	福島	市町村史	8	新福島風土記編集会	1981	新福島風土記2 福島県の自然と生活	創土社	441-448	相馬地方、いわき市	《記述的研究》音声(音韻)/語彙/文法	福島県のことば。
594	福島	市町村史	9	保原町史編纂委員会(渡辺友左(転載))	1981	保原町史 第4巻 民俗	保原町	766-799	伊達市(保原町)	《記述的研究》語彙/方言集	前半(766-777)「福島北部方言の形容詞語彙体系」(転載、一部改編) 後半(778-799)保原近郷方言集。
595	福島	市町村史	10	船引町船引町教育委員会 船引町史編さん委員会	1982	船引町史 民俗編	船引町船引町教育委員会 船引町史編さん委員会	725-733	田村市(船引町)	《記述的研究》方言集	第十章 三 方言。
596	福島	市町村史	11	都路村史編纂委員会	1985	都路村史	都路村	635-652	田村市(都路村)	《記述的研究》方言集	第四編 民俗と宗教 第六節 方言と訛語。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
597	福島	市町村史	12	田中正能監修/富岡町史編纂委員会編	1987	富岡町史 第三巻 考古・民俗編	富岡町	925-959	富岡町	《記述的研究》方言集	第十章 第二節 方言。
598	福島	市町村史	13	川内村史編纂委員会	1988	川内村史 第三巻 民俗編	川内村史編纂委員会	612-642	川内村	《記述的研究》方言集	第十二章 一 方言。
599	福島	市町村史	14	滝根町史編さん委員会	1988	滝根町史 第3巻民俗	滝根町	805-829	田村市(滝根町)	《記述的研究》音声(音声/音韻)/語彙/文法	第四節 滝根のことば方言のほぼ全般にわたる記述が行われている。
600	福島	市町村史	15	葛尾村史編纂委員会	1991	葛尾村史	葛尾村	528-549	葛尾村	《記述的研究》方言集/文法(文法概説)	品詞ごとに記載。
601	福島	市町村史	16	大越町教育委員会町史編さん室	1996	大越町史 第三巻 民俗編	大越町教育委員会町史編さん室	622-644	田村市(大越町)	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法/その他	第一節 第九章 三方言。
602	福島	市町村史	17	檜葉町教育委員会	2006	檜葉町の民俗 暮らしの足あと	檜葉町教育委員会	481-501	檜葉町	《記述的研究》語彙	第3部 暮らしのぬくもりⅢ ことばによる言い伝え二、方言 檜葉町文化財調査委員会編(1995)『ならはの方言』の中から民俗に関する方言を分野別に掲載。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
603	茨城	書籍	1	井川作之助 (巴水)	1911	茨城百科全書上巻	茨城百科全書発行所	308	水戸市～全域 土浦市	《記述的研究》方言集	「茨城方言」(p.189-307)として方言語彙集(方言形一品詞-共通語)を掲げる。
604	茨城	書籍	2	佐藤季愛	1936	鹿島郡に於ける方言語彙の研究	佐藤季愛	174	鹿島郡	《記述的研究》音声/方言集/文法	
605	茨城	書籍	3	田口美雄	1954	地調(54) 方言の記述(茨城県新治郡田余村)	田口美雄	81	全域	《記述的研究》音声/文法	最初に「茨城県方言の概観」があり、そののち音韻、文法とつづく。国立国語研究所所蔵。
606	茨城	書籍	4	外山善八、金沢直人	1966	水戸地方の方言資料—(附)符牒・符号および隠語—	茨城民俗学会	71	水戸市	《記述的研究》方言集	
607	茨城	書籍	5	茨城教育協会	1975	茨城方言集覧	国書刊行会	255	全域	《記述的研究》方言集	
608	茨城	書籍	6	更科公護	1981	茨城こども歳時記(春夏編)	筑波書林(土浦) (茨城図書)ふるさと文庫	104	全域	《記述的研究》語彙	茨城県のかつての農村における四季折々の子供の遊びを解説したもの。春「たこあげ」～「国とり」(55項目)、夏「五月節供と武者遊び」～「子供と俗信」(73項目)、各0.5～2ページ程度の分量。解説の中に方言形(方言の呼び名)が出てくる。
609	茨城	書籍	7	更科公護	1982	茨城こども歳時記(秋冬編)	筑波書林(茨城図書)ふるさと文庫	185	全域	《記述的研究》語彙	春夏編に同じ。春夏編とは別冊だが、ページは通し。秋「チンチロリメ捕り」～「バテン銃」(53項目)、冬「たき火」～「もちつき」(51項目)。
610	茨城	書籍	8	遠藤忠男	1983	茨城のことば 上	筑波書林	96	全域	《記述的研究》語彙	二分冊。上巻はpp.1～96。
611	茨城	書籍	9	遠藤忠男	1984	茨城のことば 下	筑波書林	98	全域	《記述的研究》語彙	二分冊。下巻はpp.97～194。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
612	茨城	書籍	10	更科公護	1985	水戸市の動植物方言・動物編(ふるさと文庫)	筑波書林	78	水戸市	《記述的研究》方言集	二分冊。索引つき。動物編はpp.1～78。
613	茨城	書籍	11	更科公護	1985	水戸市の動植物方言・植物編(ふるさと文庫)	筑波書林	85	水戸市	《記述的研究》方言集	二分冊。索引つき。植物編はpp.79～163。
614	茨城	書籍	12	横山俊珠	1986	なんたんべえ歳時記—茨城のことば・習俗12カ月	川又書店	199	全域	《記述的研究》語彙	
615	茨城	書籍	13	市村正二・瀬谷義彦・櫻井明俊	1987	茨城県風土記	旺文社	16	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/語彙(意味・用法)/文法(助詞/活用/文末形式・文末表現/その他(接辞))/言語行動(あいさつ)/待遇表現(敬語)/談話資料/その他	
616	茨城	書籍	14	波崎町文化財保護審議会	1990	波崎のことば	波崎町教育委員会	132	神栖市(鹿島郡波崎町)	《記述的研究》音声/文法/方言集	波崎町方言の発音と文法の特徴を概説した上で、方言語彙集(方言形—意味—用例の3段からなる)を五十音順に掲げる。
617	茨城	書籍	15	赤城毅彦	1991	茨城方言民俗語辞典	大橋信夫	1015	全域	《記述的研究》方言集	辞典として、分量が多い。
618	茨城	書籍	16	山形巍著/黒澤利康編著	2003	方言事典—大津あたりの言葉と民俗—	北茨城民俗学会	550	北茨城市	《記述的研究》方言集	北茨城市大津町。
619	茨城	書籍	17	加藤正信・大橋純一・武田拓・半沢康	2004	関東・東北境界域言語地図 常磐線・磐越東線グロットグラム	いわき明星大学人文学部加藤正信研究室	379	北茨城市、高萩市、日立市、ひたちなか市、水戸市	《グロットグラム》音声(アクセント)/語彙/文法(助詞/活用/テンス/アスペクト/条件表現)/その他(方言意識)	前半は福島浜通、中南部～栃木・茨城県北部の言語地図。後半はグロットグラム。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
620	茨城	論文	1	浅野長雄	1956	茨城県海産魚類の方言について	魚類学雑誌5(魚の会)	19-51	全域	《記述的研究》語彙(語形)	茨城県沿岸以外に、全国の方言も収載。
621	茨城	論文	2	宮島達夫	1961	方言の実態と共通語化の問題点 6福島・茨城・栃木	[方言学講座2]	236-263	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/文法(助詞/活用/テンス/条件表現)	全体的な概説は最初の一部。具体的な記述は茨城県水海道市中妻町のもの(筆者の内省による)。
622	茨城	論文	3	金沢直人	1964	茨城県の竹馬方言の分布	茨城の民俗3(茨城民俗学の会)	10-14	全域	《地理的分布》語彙(語形)	竹馬の語形分布。
623	茨城	論文	4	茨大国研方言ゼミ	1966	茨城県の氷柱方言の分布 資料編(口承文芸)その一 俚諺と昔話(天気・時刻・昔話など)その二 方言・民謡	茨城の民俗5(茨城民俗学の会)	36-42	全域	《地理的分布》語彙(語形)	正式な筆者名は「茨城大学学友会国語国文学研究会方言ゼミナール同人 金沢直人・柴田栄八郎・三津山柱江・青砥順子・森島稔」か。県内各小学校の六年生の児童を対象に、氷柱の絵を見せ、これをその土地の方言で何というかを筆答させる方法。
624	茨城	論文	5	広瀬金之介	1966	水戸の方言	茨城の民俗5(茨城民俗学の会)	73-74	水戸市	《記述的研究》方言集	「水戸地方の方言資料{1}の追加」とあるため、どこかでその方言資料をこれ以外にも発表している可能性が高い。
625	茨城	論文	6	石馬賢洲	1966	大野村地方の方言	茨城の民俗5(茨城民俗学の会)	74-76	鹿嶋市(大野村)	《記述的研究》方言集	
626	茨城	論文	7	石馬賢洲	1968	大野村地方の方言(追加)	茨城の民俗7(茨城民俗学の会)	117のみ	鹿嶋市(大野村)	《記述的研究》方言集	
627	茨城	論文	8	石黒賢洲	1971	鹿島郡大野地方の方言(その三)	茨城の民俗10(茨城民俗学の会)	145-146	鹿嶋市(大野村)	《記述的研究》方言集	
628	茨城	論文	9	井上史雄・加藤正信・高田誠・徳川宗賢	1971	利根川流域の語の分布	[利根川—自然・文化・社会—]	212-222	利根川河口から上流の沼田市南部まで(茨城県33地点)	《地理的分布》語彙(語形)	分布地図が多い。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
629	茨城	論文	10	野尻洋一	1973	那珂湊の自然発話	フィールドの歩み2 (東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	59-78	ひたちなか市 (那珂湊市)	《記述的研究》談話資料	
630	茨城	論文	11	青柳精三	1973	東北の東海岸における方位潮流語彙の外観	フィールドの歩み4 (東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	49-69	日立市	《地理的分布》語彙	岩手県久慈市久喜より茨城県日立市川尻に至る22の漁港で、漁歴の長い人から聞き取り調査をしたもの。
631	茨城	論文	12	大崎和二・月橋輝男・森泉昭治・吉川昭雄・日下部三郎・鈴木幸三郎・安氏優・武田英之・引地三千夫・高嶋彰・萩谷俊雄	1978	茨城、千葉両県における慣行田植法の地域性とその成立要因に関する研究 第1報 田植法とそれに関する方言の分布について	茨城大学農学部学術報告25 (茨城大学農学部)	89-106	全域	《記述的研究》語彙	方言についてはp.99-101に「方言の分布」として掲載。
632	茨城	論文	13	平山輝男	1978	移住者二世の言語—特に無アクセント地域の場合—	国語学114 (国語学会)	35-47	水戸市、日立市、東海村	《記述的研究》その他 (言語習得)	
633	茨城	論文	14	更科公護	1983	波崎町の動植物方言	茨城の民俗22 (茨城民俗学の会)	43-53	神栖市 (波崎町)	《記述的研究》語彙	
634	茨城	論文	15	金沢直人	1984	茨城県の方言	[講座方言学5 関東地方の方言]	79-100	全域	《記述的研究》音声 (音声/音韻/アクセント)/語彙/文法 (文法概説)/待遇表現 (敬語)/その他 (方言区画)	
635	茨城	論文	16	更科公護	1985	茨城のトンボの方言	茨城の民俗24 (茨城民俗学の会)	92-104	全域	《地理的分布》語彙 (語形)	
636	茨城	論文	17	更科公護	1986	アリジゴクとスベリヒユの方言	茨城の民俗25 (茨城民俗学の会)	91-98	全域	《地理的分布》語彙 (語形)	
637	茨城	論文	18	更科公護	1987	茨城セミの方言	茨城の民俗26 (茨城民俗学の会)	70-80	全域	《地理的分布》語彙 (語形)	
638	茨城	論文	19	更科公護	1988	茨城の植物方言 路傍や畑の雑草	茨城の民俗27 (茨城民俗学の会)	101-114	全域	《地理的分布》語彙 (語形)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
639	茨城	論文	20	更科公護	1989	バッタと鳴く虫の方言	茨城の民俗28(茨城民俗学の会)	43-54	全域	《地理的分布》語彙(語形)	
640	茨城	論文	21	更科公護	1990	茨城の植物方言 山林や原野の草	茨城の民俗29(茨城民俗学の会)	63-75	全域	《地理的分布》語彙(語形)	
641	茨城	論文	22	更科公護	1991	蝶や蛾の茨城方言(付幼虫および蛹)	茨城の民俗30(茨城民俗学の会)	48-60	全域	《地理的分布》語彙(語形)	
642	茨城	論文	23	更科公護	1993	茨城の植物方言—水田やその周辺の草—	茨城の民俗32(茨城民俗学の会)	73-86	全域	《地理的分布》語彙(語形)	
643	茨城	論文	24	内藤裕之	1999	使役表現「サセル」による待遇法の特徴—北茨城市方言を対象として	[地域言語調査研究法]	62-70	北茨城市	《記述的研究》文法/《世代差》待遇表現	
644	茨城	論文	25	国立国語研究所	2002	I 茨城県水戸市1982	[全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第4巻 茨城・栃木]	11-116	水戸市	《記述的研究》談話資料	昭和52年度から60年度にかけて、文化庁によって実施された「各地方言収集緊急調査」の一部。水戸市の談話資料は1982年(昭57)のもの。
645	茨城	論文	26	早野慎吾	2002	東京語話者と茨城語話者のイメージ—水戸市の調査から	名古屋・方言研究会会報19(名古屋・方言研究会)	67-74	水戸市	《記述的研究》その他	
646	茨城	論文	27	早野慎吾	2002	首都近郊都市における方言形の分類—茨城県水戸市の場合—	[地域語研究論集：山田達也先生喜寿記念論文集]	301-326	水戸市	《共通語化》語彙(語形)	
647	茨城	論文	28	早野慎吾	2006	キャンパスことばの研究常盤大学(茨城県水戸市)の調査から	宮崎大学教育文化学部紀要. 人文科学14(宮崎大学教育文化学部)	13-35	水戸市	《記述的研究》その他(キャンパスことば)	
648	茨城	論文	29	早野慎吾	2006	無アクセントの比較研究：栃木・茨城アクセントと宮崎アクセントの比較	地域文化研究1(宮崎地域文化研究会)	23-32	全域	《共通語化》音声(アクセント)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
649	茨城	論文	30	本多真史	2009	関東・東北接触地帯における新方言普及	言文56(福島大学教育学部国語学国文学会)	32-42	北茨城市、高萩市、日立市、東海村、ひたちなか市、水戸市	《グロットグラム》語彙	東北本線、常磐線グロットグラム。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
650	茨城	市町村史	1	鹿島町史編さん委員会	1974	鹿島町史 第二巻	鹿島町史編さん委員会	514-551	鹿嶋市	《記述的研究》音声(音韻/アクセント)/方言集	「方言」。
651	茨城	市町村史	2	大野村史編さん委員会	1979	大野村史	大野村教育委員会	399-401	鹿嶋市(鹿島郡大野村)	《記述的研究》方言集	思いつくまま収集。
652	茨城	市町村史	3	高萩市史編纂専門委員会	1969	高萩市史 下	高萩市役所	701-710	高萩市	《記述的研究》方言集/《地理的分布》語彙	
653	茨城	市町村史	4	大洗町文化財保存会	1969	大洗町史料 一	大洗町教育委員会	44-51	大洗町	《記述的研究》音声/方言集/文法(助詞)	第十五章 言語。方言訛語、俗説、歌謡などについて紹介している。頁数は方言訛語の部分のみ。部分タイトル「郷土大観 磯浜志」。
654	茨城	市町村史	5	東海村史編さん委員会	1992	東海村史9 民俗編	東海村	963-980、998-1000	東海村	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法/談話資料	全体的に語彙が載っている。民俗の解説、説明。さらに当時の若い世代4人に対して使用語彙、理解語彙を尋ねている。また、節末には談話資料も掲載。充実している。p.998-1000に当方言の音韻、文法の簡略な解説もある。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
655	千葉	書籍	1	栗飯原金次郎・神戸直次	1911	千葉県 方言調査書	栗飯原金次郎 神戸直次	45	全域	《記述的研究》方言集	
656	千葉	書籍	2	調査者井田律子	1928	千葉県海上郡高神村 地方方言	郷土研究社	頁付なし	旭市	《記述的研究》方言集	名詞・代名詞・形容詞・動詞・雑誌などの単語や文例について掲載。東条操編の「方言採集手帖」に調査結果を手書き記入したもの。
657	千葉	書籍	3	井上平四郎	1933	山武郡方言研究	井上平四郎	55	山武郡	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/方言集/文法(活用/文末形式・文末表現)	採集した2681語をもとに、文法・音韻・転訛現象・訛音矯正私案・アクセント・語法についてまとめた。
658	千葉	書籍	4	塚田芳太郎	1934	千葉方言 第1	千葉方言刊行会	165	全域	《記述的研究》文法(文法概説)	
659	千葉	書籍	5	嚶鳴尋常高等小學校	1937	嚶鳴村方言	千葉県海上郡嚶鳴尋常高等小學校	13	旭市	《記述的研究》音声(音韻)/語彙(意味・用法)	「嚶鳴村々誌」よりの抜刷。西沢良澄氏の調査による。特殊語・清音濁音・音韻・対照語彙など。
660	千葉	書籍	6	安藤操	1942	房総のふるさと言葉	国書刊行会(NPO法人ふるさと文化研究会)	245	九十九里、白子町、いすみ市、銚子市、一宮町、匝瑳市、山武市	《記述的研究》語彙(意味・用法)/言語行動/談話資料	付属CDつき。NHK千葉FM放送局「まるごと千葉」で放送した方言と民話を収録。
661	千葉	書籍	7	上智大学史学会・史学研究会	1968	東上総の社会と文化：千葉県長生郡総合調査	上智大学史学会、史学研究会	420	長生郡	《記述的研究》方言集	天文・地理・慣習・衣食住・動物・食物・動詞・形容詞・雑詞・雑載に分類され、カタカナで表記されている。
662	千葉	書籍	8	川名興	1969	千葉県の植物方言 第一報-第三報(下)	川名興 第3報の発行地は [鋸南町(千葉県)]	135	全域	《記述的研究》方言集/《地理的分布》語彙(意味・用法)	
663	千葉	書籍	9	川名興	1969	千葉県の動物方言 第一報	川名興	145	全域	《記述的研究》方言集/《地理的分布》語彙(意味・用法)	
664	千葉	書籍	10	川名興	1970	千葉県の動物方言、 千葉県の植物方言 第二報	川名興	76	全域	《記述的研究》方言集、 《地理的分布》語彙(意味・用法)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
665	千葉	書籍	11	椎野秀峯	1971	長生地方の童謡と民謡方言里諺集	東総園	237	長生郡	《記述的研究》方言集	郷土の方言編(pp.100-199)。天文気候・歴歳・地理交通など24項目に分類。共通語と方言形とを対照させて表記したものの。
666	千葉	書籍	12	川名興	1971	千葉県の動物方言、千葉県の植物方言 第三報 上	川名興	249	全域	《記述的研究》方言集、《地理的分布》語彙(意味・用法)	
667	千葉	書籍	13	川名興	1971	千葉県の動物方言、千葉県の植物方言 第三報 中	川名興	260	全域	《記述的研究》方言集、《地理的分布》語彙(意味・用法)	
668	千葉	書籍	14	川名興	1971	千葉県の動物方言、千葉県の植物方言 第三報 下	川名興	209	全域	《記述的研究》方言集、《地理的分布》語彙(意味・用法)	
669	千葉	書籍	15	徳川宗賢・坂本真理子	1974	千葉県夷隅川流域方言地図	学習院大学方言研究会(夷隅のことばをたずねる会)	48図	いすみ市	《地理的分布》語彙	動物名・植物名・日常用語・遊び・動詞など48の語の地図。
670	千葉	書籍	16	塚田芳太郎[等]	1975	千葉方言 山武郡篇	青史社、合同出版	110	山武郡	《記述的研究》音声(音韻)/方言集/文法(活用)/その他	昭和9(1934)年刊の複製。千葉県中等教育研究会が県内の全小学校に採集簿を交付し調査したもので全13巻の刊行予定が既刊はこれのみ。
671	千葉	書籍	17	川名興	1975	富津市(旧富津町)の動物方言基礎資料; 富津市(旧富津町)の動・植物方言 その2-その3	川名興	?	富津市	《記述的研究》方言集	「その2」は植物方言名を併載。29種の動物名の異名の調査。
672	千葉	書籍	18	千葉県教育委員会	1981	千葉県方言の自然談話1	千葉県教育委員会	778	長生郡、旭市(海上郡)	《記述的研究》談話資料	
673	千葉	書籍	19	戸石史郎・戸石芳江	1981	銚子の民俗と方言(ふるさと文庫(新書))	崙書房	179	銚子市	《記述的研究》音声(音韻)/文法(文法概説/助詞/接続表現)	pp.90-95に「銚子方言の特色私見」として方言についての記述あり。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編著者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
674	千葉	書籍	20	千葉県教育委員会	1982	千葉県方言の自然談話2	千葉県教育委員会	821	長生郡、旭市(海上郡)	《記述的研究》談話資料	
675	千葉	書籍	21	山本熊之助	1982	私の銚子方言考	工面堂	111	銚子市	《記述的研究》方言集	
676	千葉	書籍	22	千葉県教育委員会	1983	千葉県方言の自然談話3	千葉県教育委員会	624	長生郡、旭市(海上郡)	《記述的研究》談話資料	昔の海岸のようす、子どもの頃の遊びといった談話を収録。
677	千葉	書籍	23	学習院大学方言研究会	1983	千葉県夷隅川流域新方言地図	学習院大学方言研究会	頁付なし	いすみ市	《地理的分布》語彙	
678	千葉	書籍	24	川名興	1986	千葉県の植物方言(6)-(10)	野外植物研究会刊『野草』No.399 (vol.50), No.403 (vol.51), No.405 (vol.51)-No.406 (vol.51), No.409 (vol.52)よりの複写 昭和59-昭和61	8	全域	《記述的研究》方言集	『野草』No.399~No.409に渡る全8ページ。千葉の植物方言を紹介するコーナーの部分を抜粋して製本したもの。国研所蔵。
679	千葉	書籍	25	銚子市教育委員会	1988	銚子のことば	銚子市教育委員会	119	銚子市	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/方言集/文法(文法概説)	
680	千葉	書籍	26	小高昇	1990	一宮地方方言集	一宮町	37	一宮町	《記述的研究》方言集	
681	千葉	書籍	27	銚子市教育委員会	1996	銚子のことば	銚子市教育委員会	124	銚子市	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/方言集/文法(文法概説)	改訂増補第2版。
682	千葉	書籍	28	篠崎晃一ゼミ	1996	千葉県白子町方言調査報告書	東京都立大学人文学部	142	白子町	《記述的研究》音声(音声)/語彙(意味・用法)/文法(助詞)/待遇表現/その他(方言意識)	
683	千葉	書籍	29	石橋満壽男	1996	千葉訛：方言集	東京文芸館	198	全域	《記述的研究》方言集	
684	千葉	書籍	30	平山輝男ほか編/佐々木英樹・真田信治執筆	1997	〈日本のことばシリーズ3〉千葉のことば	明治書院	223	全域	《記述的研究》音声(音韻/アクセント/イントネーション)/方言集/語彙(意味・用法)/文法(助詞/助動詞/活用)	概説書。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
685	千葉	論文	1	大久保初男	1889	上総国長柄郡一ノ宮方言表	東京人類学会雑誌(人類学雑誌)4-40(東京人類学会)	416のみ	一宮町	《記述的研究》方言集	
686	千葉	論文	2	蓋山處士	1915	九十九里浜方言考(上総之部)	風俗画報471(東陽堂)	16-17	九十九里町	《記述的研究》方言集	名詞、動詞、または成句などと明記して、いくつか方言をあげている。
687	千葉	論文	3	蓋山處士	1916	九十九里浜方言考(上総之部)	風俗画報477(東陽堂)	15-16	九十九里町	《記述的研究》方言集	471の続きか。内容は異なる。
688	千葉	論文	4	本山桂川	1932	千葉縣郡別方言集中篇	民俗研究43(日本民俗研究会)	57-106	海上郡、山武郡、長生郡	《記述的研究》方言集	「千葉県各郡の郡誌中に収録せる所謂「方言訛音」の項中より適宜抜抄したものである」とのこと。頁数は上中下連番(上は『民俗研究』40、pp.1-56)。上篇は「東葛飾郡之部、千葉郡之部、印旛郡之部、香取郡之部」。中篇は「海上郡之部、山武郡之部、長生郡之部」。下篇は「市原郡之部、夷隅郡之部、君津郡之部、安房郡之部」。
689	千葉	論文	5	本山桂川	1932	千葉縣郡別方言集下篇	民俗研究46(日本民俗研究会)	107-166	夷隅郡、君津郡	《記述的研究》方言集	「千葉県各郡の郡誌中に収録せる所謂「方言訛音」の項中より適宜抜抄したものである」とのこと。頁数は上中下連番(上は『民俗研究』40、pp.1-57)。上篇は「東葛飾郡之部、千葉郡之部、印旛郡之部、香取郡之部」。中篇は「海上郡之部、山武郡之部、長生郡之部」。下篇は「市原郡之部、夷隅郡之部、君津郡之部、安房郡之部」。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
690	千葉	論文	6	浅野栄一郎	1936	千葉県長生郡一宮町方言	方言誌16(国学院大学方言研究会)	1-53	一宮町	《記述的研究》音声(音声)/語彙(意味・用法)/方言集/文法(助詞/活用/文法概説/その他(接辞))	タイトルには「昭和十一年三月採集」とある。また、話者情報も中に記載されている。この巻はほぼすべてがこの論文。中身は語彙が中心だが、音声や文法についても多少触れられている。
691	千葉	論文	7	林天然	1939	房総方言集(1)	千葉文化1-4(千葉中央図書館)	8-13	長生郡	《記述的研究》方言集	
692	千葉	論文	8	林天然	1939	房総方言集(2)	千葉文化1-5(千葉中央図書館)	8-14	長生郡	《記述的研究》方言集	
693	千葉	論文	9	林天然	1939	房総方言集(3)	千葉文化1-6(千葉中央図書館)	12-15	長生郡	《記述的研究》方言集	
694	千葉	論文	10	林天然	1939	房総方言集(4)	千葉文化1-7(千葉中央図書館)	10-15	長生郡	《記述的研究》方言集	稿末に「筆者ハ郷土史家住所 長生郡鶴枝村」とある。
695	千葉	論文	11	林天然	1939	房総方言集(5)	千葉文化1-8(千葉中央図書館)	10-12	長生郡	《記述的研究》方言集	
696	千葉	論文	12	林天然	1940	房総方言集(6)	千葉文化2-1(千葉中央図書館)	12-15	長生郡	《記述的研究》方言集	
697	千葉	論文	13	林天然	1940	房総方言集(7)	千葉文化2-2(千葉中央図書館)	12-15	長生郡	《記述的研究》方言集	
698	千葉	論文	14	林天然	1940	房総方言集(8)	千葉文化2-5(千葉中央図書館)	10-13	長生郡	《記述的研究》方言集	
699	千葉	論文	15	W.A.グローターズ/柴田武(訳)	1959	千葉県アクセントの言語地理学的研究	国語学37(国語学会)	1-34	全域	《地理的分布》音声(アクセント)	
700	千葉	論文	16	金田一春彦	1960	房総アクセント再論—グローターズさんの「千葉県アクセントの言語地理学的研究」を読んで	国語学40(国語学会)	42-54、105	房総半島	《地理的分布》音声(アクセント)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
701	千葉	論文	17	加藤信昭	1961	方言の実態と共通語化の問題点 8千葉・東京・神奈川	[方言学講座2]	282-306	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻/アクセント)/文法(活用)	概説。
702	千葉	論文	18	鈴木国郭	1964	夷隅生活語覚之書	総南文化3(総南文化研究会)	15-17	いすみ市	《記述的研究》語彙	旧夷隅郡の年中行事に関連した語を解説したもの。
703	千葉	論文	19	中村正紀	1968	一ノ宮町東浪見地区方言集稿	上智大学方言学会会報37	(16)	全域	《記述的研究》方言集	
704	千葉	論文	20	中条修	1971	千葉県山武町方言の音韻	都立大学方言学会会報37(都立大学方言学会)	1-10	山武市(山武町)	《記述的研究》音声(音声/音韻)	
705	千葉	論文	21	加藤昭	1972	外川ことばの音声面における特徴	フィールドの歩み1(東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	(18)	銚子市	《記述的研究》音声(音声/音韻)	漁に関する語。分量少ない。
706	千葉	論文	22	野尻洋一	1972	『外川の自然と人間』	フィールドの歩み1(東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	(18)	銚子市	《記述的研究》音声(音背/音韻)	風と潮に関する語。分量少ない。
707	千葉	論文	23	大橋勝男	1972	関東地方の方言についての言語地理学的研究	新潟大学教育学部紀要.人文・社会科学編14(新潟大学教育学部)	53-62	全域	《地理的分布》語彙	千葉県の方言調査地点は29地点。
708	千葉	論文	24	川名興	1972	生物方言の教材化	理科教育研究11-5(千葉県教育センター)	6-7	富津市	《その他》	生物の方言形をあげ、その命名が生物の特長を捉えていると指摘し、それを生物教育に活かそうという内容。
709	千葉	論文	25	大島一郎	1973	千葉県山武町方言の語法	人文学報96(東京都立大学人文学会)	103-127	山武市(山武町)	《記述的研究》文法(活用)	形態と表現について。分量やや多い。
710	千葉	論文	26	村上昭子	1973	外川の自然発話(1)	フィールドの歩み2(東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	(34)	銚子市	《記述的研究》音声(音声/音韻)	会話に見られる音韻。分量やや多い。
711	千葉	論文	27	川名興	1975	千葉県でのネコハエトリの方言	房総文化13(房総文化研究所)	13-23	富津市を中心に全域	《記述的研究》語彙(意味・用法)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
712	千葉	論文	28	川名興	1975	千葉県の主な生物方言	〔千葉県の生物〕別刷	227-241	全域	《記述的研究》方言集	日本生物教育会第30回全国大会(千葉大会)実行委員会「千葉県の生物」編集部編。1975.8刊。千葉県の動植物名を掲載。26項目。地点名あり。
713	千葉	論文	29	川名興	1975	千葉県の植物方言	〔新版千葉県植物誌〕	316-320	全域、いすみ市	《記述的研究》方言集	全域的に植物方言名を載せるとともに、安房郡、夷隅郡における動植物の方言名について、地点名を載せながら数十語掲載してある。
714	千葉	論文	30	青柳精三	1977	九十九里浜片貝の翹巻網漁の語彙	フィールドの歩み10(東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	(32)	九十九里町	《記述的研究》語彙(意味・用法)	九十九里町片貝の漁に関する語彙。説明あり。
715	千葉	論文	31	伊東裕子	1977	千葉県九十九里浜片貝の風	フィールドの歩み10(東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	(4)	九十九里町	《記述的研究》語彙(意味・用法)	九十九里町片貝の風に関する語。分量少ない。
716	千葉	論文	32	太田守	1977	千葉県九十九里浜片貝の潮	フィールドの歩み10(東京教育大学言語学研究室生活語研究会)	(5)	九十九里町	《記述的研究》語彙(意味・用法)	九十九里町片貝の潮に関する語。分量少ない。
717	千葉	論文	33	川名興	1977	千葉県のゴキブリの方言	千葉生物誌26-2(千葉県生物学会)	93-102	全域	《地理的分布》語彙	ゴキブリの方言について、千葉県全域の語形分布を地図化してある。
718	千葉	論文	34	大崎和二・月橋輝男・森泉昭治・吉川昭雄・日下部三郎・鈴木幸三郎・安氏優・武田英之・引地三千夫・高嶋彰・萩谷俊雄	1978	茨城、千葉両県における慣行田植法の地域性とその成立要因に関する研究 第1報 田植法とそれに関する方言の分布について	茨城大学農学部学術報告25(茨城大学農学部)	89-106	全域	《記述的研究》語彙	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
719	千葉	論文	35	川名興	1978	富津市富津の方言分布地図 特に老人と中学生の場合	千葉生物誌(創立30周年記念号)別刷27-12(千葉県生物学会)	123-133	富津市	《地理的分布》《世代差》語彙	動植物の方言(26項目)について、富津市の明治生まれと当時中学3年生のその孫を対象に調査。26項目について地図を作成してある。
720	千葉	論文	36	川名興	1981	富津市西川での海産物方言	冬虫夏草16(安房生物愛好会)	56-57	富津市	《記述的研究》語彙(語彙/意味・用法)	20程度の語。
721	千葉	論文	37	川名興	1982	佐倉の鳥の方言	冬虫夏草18(安房生物愛好会)	(3)	富津市	《記述的研究》語彙	
722	千葉	論文	38	川名興	1983	千葉県方言の特徴	〔房総半島の孤島性とその文化の研究〕	71-72	全域	《記述的研究》語彙(意味・用法)/文法(文法概説)	『トヨタ財団助成研究報告書』(房総半島の孤島性研究会 研究代表者鈴木晃)。
723	千葉	論文	39	伊藤一也	1984	千葉方言の文法から―「ニ」格,「サ」格,「ヲ」格,「シ」格,「ト」格のほりあい関係を見る	国文学解釈と鑑賞49-1(至文堂)	63-74	山武市	《記述的研究》文法(文法概説)	名詞・動詞の形態論。分量多い。用例多い。
724	千葉	論文	40	佐々木英樹	1984	千葉県の方言について	〔講座方言学5 関東地方の方言〕	101-130	全域	《記述的研究》音声(音声/音韻)/文法(活用)/言語行動(表現)/待遇表現(敬語)/《地理的分布》音声(音声/アクセント)/《その他》研究史	地理的分布は方言区画設定のためのもの。
725	千葉	論文	41	川名興	1986	植物の方言にみる命名の民俗学的考察	日本民俗学168(日本民俗学会)	59-68	房総半島	《記述的研究》その他(命名法)	命名法の考察。植物名自体は川名興(1975)「千葉県の植物方言」から。
726	千葉	論文	42	篠崎晃一	1991	千葉方言における動詞・形容詞の活用	人文学報225(東京都立大学人文学部)	59-80	旭市	《記述的研究》文法(活用)	その他、勝浦、長生郡長南町小沢、印旛郡本埜村が調査地点。
727	千葉	論文	43	佐藤亮一	1991	千葉県銚子市高神東町における祝言のあいさつ	方言資料叢刊1(方言研究ゼミナール)	54-62	銚子市	《記述的研究》語彙(意味・用法)/談話資料	
728	千葉	論文	44	佐藤亮一	1992	千葉県銚子市田神東町方言における身体感覚を表すオノマトペ	方言資料叢刊2(方言研究ゼミナール)	45-49	銚子市	《記述的研究》語彙(オノマトペ)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	著者	発行年	論文名	雑誌名	頁数	地域	内容	注
729	千葉	論文	45	川名興	1992	千葉県のモクズガニの方言	Cancer2(日本甲殻類学会)	3-6	全域	《地理的分布》語彙(意味・用法)	
730	千葉	論文	46	浅尾公司	1994	外房・大原の方言に関する一考察	環境社会学研究9(千葉大学教育学部社会学研究室)	44-48	いすみ市	《記述的研究》語彙(意味・用法)/談話資料	
731	千葉	論文	47	篠崎晃一	1995	地域社会への新語の浸透 山形県東田川郡三川町と千葉県長生郡白子町との比較	人文学報266(首都大学東京)	1-13	白子町	《共通語化》語彙(意味・用法)	新語の浸透。分量少ない。
732	千葉	論文	48	江波戸絹代	1998	千葉県下の高校生の方言使用の状況	日本文学誌要58(法政大学国文学会)	128-141	全域	《共通語化》音声(音韻)/語彙/文法/その他	卒業論文。
733	千葉	論文	49	国立国語研究所	2002	Ⅱ.千葉県長生郡長生村1977	[全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成 第5巻 埼玉・千葉]	103-230	長生村	《記述的研究》談話資料	昭和52年度から60年度にかけて、文化庁によって実施された「各地方言収集緊急調査」の一部。長生村の談話資料は1977年(昭52)のもの。
734	千葉	論文	50	川名興	2003	海辺の人々からみた天文・気象方言と天気の違い 銚子、九十九里、白浜、富津、金田	千葉県立安房博物館研究紀要10(千葉県立安房博物館)	3-42	銚子市、九十九里町	《記述的研究》《地理的分布》語彙(意味・用法)	アンケート結果の掲載。他に南房総市(白浜)、富津市(富津)、木更津市(金田)も。
735	千葉	論文	51	小嶋小百合	2003	千葉の方言について一特に「アオナジミ」を中心として一	昭和学院国語国文36(昭和学院短期大学国語国文学会)	28-34	全域	《地理的分布》語彙(語形)	

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
736	千葉	市町村史	1	山田角次郎	1900	香取郡誌	山田角次郎	93-97	香取郡	《記述的研究》方言集	
737	千葉	市町村史	2	山武郡教育会	1916	山武郡郷土誌	山武郡教育会	208-221	山武郡	《記述的研究》方言集	第十六章風俗 第二節言語 山武郡方言集として挙げられている。 (第三節に遊戯歌謡) 1976年、崙書房から復刊。
738	千葉	市町村史	3	夷隅郡役所	1923	千葉県夷隅郡誌	夷隅郡役所	745-777	夷隅郡	《記述的研究》方言集/語彙(意味・用法)	第二十二章 方言訛言 1972年、名著出版から復刊。
739	千葉	市町村史	4	長生村史編纂委員会	1960	長生村史	長生村	473-474	長生村	《記述的研究》語彙	「べえ」「アニ(何)」など、 その他語彙の列挙。記述はコメント程度。
740	千葉	市町村史	5	干潟町史編纂委員会	1975	干潟町史	干潟町	1541-1566	旭市(干潟町)	《記述的研究》方言集	方言を五十音順に配列。 語数は比較的多い。
741	千葉	市町村史	6	長生村風土記編集委員会	1980	長生村風土記 明治・大正篇	長生村教育委員会	345-357	長生村	《記述的研究》方言集	
742	千葉	市町村史	7	飯岡町史編さん委員会	1981	飯岡町史 付篇	飯岡町	327-338	旭市(飯岡町)	《記述的研究》方言集	海上郡誌、小見川町史、 干潟町史より収集。 俚言のみ。
743	千葉	市町村史	8	銚子市	1983	続銚子市史 II 昭和後期	銚子市	796-817	銚子市	《記述的研究》音声(音声/音韻)/語彙/文法(文末形式・文末表現)/待遇表現(敬語)	方言概説。
744	千葉	市町村史	9	岬町史編さん委員会	1983	岬町史	岬町	1285-1296	いすみ市(岬町)	《記述的研究》方言集	方言を五十音順で列挙。 方言の出典は「古沢村誌」「中根村誌」「夷隅郡誌」など。
745	千葉	市町村史	10	大網白里町史編さん委員会	1986	大網白里町史	大網白里町	1232-1239	大網白里町	《記述的研究》方言集	当地域の特色を持つ方言について方言五十音順に列挙(『山武郡郷土誌』を参照) 他に俚諺などが多少記されている。

Total No.	県名	書籍/論文/市町村史	No.	編者	発行年	書名	発行所	頁数	地域	内容	注
746	千葉	市町村史	11	長生村風土記編集委員会	1988	長生村風土記 昭和篇	長生村教育委員会	32のみ	長生村	《その他》	方言にまつわる随想。
747	千葉	市町村史	12	白子風土記編集委員会	1989	千葉県長生郡白子風土記	白子町	?	白子町	《記述的研究》方言集/文法(文法概説)	二. 方言・訛語(1)方言の現状 (2)訛語の現状 (3)収録の範囲。
748	千葉	市町村史	13	九十九里町誌編集委員会	1992	九十九里町誌 各論編 下巻	九十九里町	782-797	九十九里町	《記述的研究》文法(文法概説)/語彙(意味・用法)/方言集	
749	千葉	市町村史	14	財団法人 千葉県史料研究財団	2003	千葉県の自然誌 別編 4 千葉県植物誌(県史シリーズ51)	千葉県	1089-1118	全域	《記述的研究》語彙(語形)	「千葉県の植物方言」の項。「この植物方言は、川名(1971)「千葉県の植物方言第三報」を基底に、その後、収集した資料を追加した」とある。
750	千葉	市町村史	15	夷隅町史編さん委員会	2004	夷隅町史 通史編	夷隅町	966-980	いすみ市(夷隅町)	《記述的研究》方言集	五十音順、会話からの聞き取りによる方言。